

# 2018年度 新入生歓迎講演会

## 京都大学から『大学改革』の 本質を考える



◇講師 一山口 裕之氏

(徳島大学 教授)

1970年生まれ。専門はフランス近代哲学、科学哲学。  
近著に『「大学改革」という病』(2017年、明石書店)。

◇質疑応答—交流会 (別会場へ移動)

みなさんにとって「大学」って、何するところですか？  
『「大学改革」という病』の著者と、近年声高に叫ばれる「大学  
改革」なるものの病理をえぐり出し、大学の本来あるべき姿  
は何か、模索しましょう。

# 4 / 27



開会 **18:30** / 開場 18:00

吉田キャンパス 文学部第一講義室

- 入場料無料
- 学外や他大学の方もご参加いただけます

企画：2018年度新歓講演会実行委員会  
連絡先：yurusanaikai@gmail.com



『「大学改革」という病』  
(明石書店、2017年7月)

### Top customer reviews

まっちょ

★★★★★ なぜこの学長もあなのかが分かる本

February 15, 2018

Verified Purchase

「国民の負託に答える大学・研究を」と政府が言う時の「国民」が、「財界」と同義語だというのは、ものすごく的確な指摘だと思う。さらに、著者が最終章で指摘している、過剰な競争主義により、研究教育現場で引き起こされている弊害に関する指摘は全くその通りで、完全に同意する。なお、薄々分かってはいたが、どうしてもこの大学の学長の言う「改革」も、コピペのように画一的で没個性（国際化・地域連携・アクティブラーニング・クォーター制・・・）なのかがよく理解できた。大学関係者は必読の本。

Comment | 3 people found this helpful. Was this review helpful to you?

(Amazon よりレビューの一部抜粋)

5月1日からの立て看板規制、9月30日までの吉田寮生への退寮勧告、学生自治を訴えた学生への懲戒処分…「自由の京大」が様変わりしようとしています。

その背景には、歴代政権が進める「教育改革」「大学改革」があるのは言うまでもありません。2004年から始まった国立大学法人化体制のもと、予算を年々削減される各大学は競争的資金・外部資金の獲得をめぐる競い合わされ、国や企業が求める短期的「成果」をあげられなければ大学運営が成り立たない構造に追い込まれました。また、どの大学の理事会や経営協議会にも中央官庁の天下り役人や大企業の重役が多数入り込み、教授会は「改革の抵抗勢力」とみなされて権限を奪われる一方で、総長（学長）—役員会の権限は独裁化し続けています。

安倍首相は「大学は知の基盤であり、イノベーションを創出し、国の競争力を高める原動力」（2月8日「人生100年時代構想会議」での発言）と言ってはばかりません。産業界をけん引し、日本が国際競争に勝ち抜く拠点たれと大学に迫っています。そのために愛国心教育に力を入れ、大学には軍事研究に加え、卒入学式での国旗・国歌実施なども要請しています。これは、安倍政権が、2015年安保関連法—17年共謀罪の成立強行に続き、20年までに憲法改悪（現行憲法9条解体）を狙う戦争政治とも一体です。

現憲法第23条の「学問の自由」および「大学の自治」は、大学人が先のアジア太平洋戦争で協力し侵略戦争のお先棒を担いだことへの痛苦的反省と一体で打ち立てられました。そして戦後70年あまり、学生、教職員はもとより、労働者民衆の多大な努力と闘争によって築かれ、守り抜かれてきました。いま京大で激化している学生自治・大学自治をめぐる攻防は、一大学の問題ではなく、大学・社会の未来にかかわる大きな問題です。4・27講演会に集まり、山口先生と一緒に「大学のあるべき姿とは何か」考えてみませんか？